

あさ・吉・夜・話

■ 其の十一

－ 入舟 －

どうもこんにちは、桂あさ吉です。

今回のテーマは「入舟」。昔、入舟町という地名がありました。現在の池島と八幡屋の辺りで、舟の出入りが多かったことからつけられました。

入舟という町名は、どこか懐かしい響きがあります。実際にこの町名があったのは大正から昭和にかけてですが、清八、喜六が生きていた、わたしの大好きな古典落語の時代の町の雰囲気を思い起こさせます。

周りを海と川に囲まれている港区では、舟は人や物を運ぶのに大活躍していました。今よりも、もっと深くそして細やかに舟は生活にかかわっていました。

舟頭　　－ 舟が出るぞー！

喜六　　－ おい清八。そろそろ行った方がええんとちゃうか。
「舟が出るぞー」って言うてるで。

清八　　－ 大丈夫、大丈夫。ああいうのはな、何べんも言うてくれんねん。
この甘酒飲んでから行こう。

舟頭　　－ 舟が出るぞー！

喜六　　－ おいつ、ほんまに大丈夫か？もう行こうや。

清八　　－ 大丈夫、大丈夫。心配すんな、まだ甘酒が残ってんねん。

舟頭　　－ 舟が出たぞー！

清八・喜六－ …。



おあとがよろしいようで。